



浜松市博物館情報



Hamamatsu City History Museum news

2021.4.15
No.343

縄文人が生きた蜷塚の森

満開の桜の花の下、蜷塚遺跡の公園やその園路を歩いていると、不思議と心が弾み、新たな年度への希望や期待を抱かせてくれます。この後、葉桜の頃になると徐々に遺跡の色みが変わり、新緑が美しい生き生きとした季節が到来します。秋には、ドングリが落ちる自然の音が楽しめます。冬になると落葉樹の葉がすっかりと落ち、今まで見えなかった空や景色、落ち葉を踏み音を楽しむことができます。このように、蜷塚遺跡公園は四季折々の豊かな変化があります。

しかし、ふと一年を振り返ると、それほど変わらない景色、一年中、緑の葉をつけている常緑広葉樹に囲まれていることに気付きます。それは、蜷塚遺跡では、縄文人が生活していたカシヤシイなどの森を、そのまま体感することができるように再現しているからなのです。



園内にあるシイノキ

氷期であった旧石器時代は、針葉樹林が広がるような光景が多く見られたと考えられます。縄文時代になると温暖化が進み、関東地方や中部地方の沿岸部から九州にかけてはカシヤシイ、クスのような温帯性常緑広葉樹林、中部地方の山地から北海道南部ではフナヤナラ、クリに代表される冷温帯性落葉広葉樹林が広がりました。

おそらく蜷塚遺跡の縄文人たちは、秋にはこの豊かな常緑広葉樹のドングリなどを拾い、加工して食べたり、貯蔵したりしていたのではないかと考えられます。蜷塚遺跡からは、植物質食料の情報がいくつか見つかりませんが、木の実を割ったり、すりつぶしたりするのに使った凹くぼみ石・石皿などが出土しています。また、博物館では、二十年近く前に、二年間にわたって、秋の木の実の採集実験をしました。それによると、一本の大きな木があれば二十人程度の集落全員が十日間生存でき、三十数本のめばしい木があれば、一年分の食料を確保できる見込みがもてるという結果も得ています。



無数に落ちるドングリ

本数は少ないですが、落葉樹のクリもあります。「縄文はクリの時代」と言われるほどよく使われてきました。「桃栗三年、柿八年」と言われるように、成長が早く、実が安定して収穫できる上に、アク抜きなどの処理を必要としないことから重要な食料でした。また、材は水湿に強く、腐りにくい上に割りやすく、加工が比較的容易にできます。現在でも、鉄道の枕木や世界遺産の合掌造りの主要部材として使われています。小学校六年生社会科教科書にも大きく掲載されている青森県三内丸山遺跡では、集落の周囲にクリを意図的に植栽し、群生させて管理していたらしいことも花粉の分析で分かっています。

ちなみに、縄文時代にあったサクラは野生種であるヤマザクラで、現在の品種改良がおこなわれたソメイヨシノではありません。しかし、縄文人も現代人と同様、またはそれ以上に、サクラの開花を心待ちにし、移り行く季節の一つの節目として大切にしていたのではないのでしょうか。

浜松市博物館には、縄文時代の植生を眺めることができる展望ギャラリーもあります。椅子に腰かけてゆっくりと木々を眺めたり、園路を歩いたりしながら、森と共に生きた縄文人の暮らしを想像し、ゆったりとした時間を過ごしていただけたいと思います。

木の実を加工するための道具



常設展示（左から順に）

【^{くぼみ}凹石】

石にくぼみをつけて、木の実を置き、石をたたきつけて殻を割る道具。（火起こしの際、火きり杵を上から押さえてできた凹石もある。）

【^{すり}磨石・叩き石】

石皿にすり付けて、木の実などをすりつぶす道具。手に持ちやすい大きさと押し潰す作業に適した重さの石を利用する。使っているうちに表面がつるつるになる。平たかない面や側面は、固まりの状態のものを叩いて潰すときに使う。

【石皿の破片】

真ん中のくぼみで、木の実などをすりつぶして粉にする道具。滑らかな磨石を使って長期間に渡って磨り潰しているうちにくぼんでいく。

学校移動博物館では、小学校の児童に「ドングリ割体験」をしてもらっています。石皿と叩き石を使い、実際にドングリを割ってみる体験を通して、縄文時代の人々の生活の様子を体感することができます。



催し物のご案内

★テーマ展

「これなんだ？ — 古代の木製品 —」

開催中～5月9日(日)

☆ギャラリートーク

4月28日(水) 14:00～14:30

★テーマ展

「独礼庄屋 高林家」

5月22日(土)～7月11日(日)

藩主に単独で目通りすることができる「独礼」という格式を持った家のひとつ、高林家を紹介します。

☆ギャラリートーク

5月29日(土)、6月26日(土)、7月2日(金)

毎回 14:00～14:30

★小展示「《干支展》 丑 うし」

開催中～5月9日(日)

豊橋市自然史博物館共催。丑にちなんだ自然、歴史、民俗の資料を展示します。

★静岡県有形文化財指定記念特別公開

「鰐口 至徳二年の陰刻銘あり（わにぐち しとくにねんのいんこくめいあり）」

開催中～9月5日(日)

会場：常設展示室

☆ギャラリートーク（鰐口の解説）

4月17日(土) 14:00～14:30

★はまはくまつり

「博物館ってこんなところ！たっぷり満喫 GW～」

5月1日(土)～5日(水)

「博物館ってどんなところ！？」の声に応えます。楽しい体験や展示の見学などを通して、博物館のことや浜松の歴史を知ることができます。

★かやぶき屋根の下で聞く日本の昔ばなし

・「はまはくまつり（GW）」でも実施予定

・6月から再開予定。お楽しみに！

会 場：蛸塚公園内 旧高山家住宅

参加費：無料 ※事前申し込み不要、直接会場へ。

※各イベントの内容、定員、参加費などの詳細は、ホームページ、SNSでご確認ください。
※イベントは、変更・中止になる場合があります。

左から、
ホームページ
ツイッター
インスタグラム



浜松市博物館

開館時間：9時～17時

〒432-8018 静岡県浜松市中区蛸塚四丁目 22 番 1 号

Eメール：hamahaku@city.hamamatsu.shizuoka.jp

4・5月の休館日：4/19, 26, 30, 5/6, 7, 10, 11, 17, 20, 21, 24, 31

電話：053-456-2208

FAX：053-456-2275

HP：https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/hamahaku/